

大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園

〒178-0063 東京都練馬区東大泉7-21-32

Tel 03-3925-6166 Fax 03-3925-6169

HP <http://www.asahide.or.jp/>



社会福祉法人大泉旭出学園の設立と 旭出生産福祉園創設の経緯について

旭出生産福祉園園長

浅井 浩

大泉旭出学園が社会福祉法人の設立認可を受けて、旭出生産福祉園を創設したのは一九七四(昭和49)年のことです。本年は45周年となります。

当時は、行政主導のいわゆる措置制度の下で、一つの社会福祉法人が一つの施設を設置する形で施設の開設が相次ぎ、その数が急激な増加に向いつつある時期でした。

社会福祉法人の制度も措置制度も、昭和26年に制定された「社会福祉事業法(現・社会福祉法)」に則った制度で、国及び地方公共団体と民間が一体となって社会福祉事業に取り組むための制度です。

つまり本来的には行政の責務である福祉事業を行政の措置として民間の非営利の「社会福祉法人」に委託し、その事業運営に必要な経費を「措置費」として公的に助成する仕組みの制度です。こうした仕組みにより、社会福祉法人の行う事業は行政との連携が大きな部分を占め、社会福祉法人の設置する福祉施設も増加し続けてきました。

社会福祉法人大泉旭出学園は、現在、旭出生産福祉園のほかにも大利根旭出福祉園、調布福祉園、旭出調布福祉作業所、板橋区立徳丸福祉園の5つの事業所を擁し、障害者福祉分野の一翼を担っているわけですが、その源は、一九五〇(昭和25)年に東京目白の徳川邸の一隅に、知的発達に遅れのある子どもの私的な教育施設として発足した「旭出学園」です。したがって教育の事業が出发点となつて現在があることになりました。

旭出学園の発足当初は、園児14名の小さな学園でしたが、一九六〇(昭和35)年に学校法人旭出学園を設立し、旭出養護学校(現・特別支援学校)を開校。その規模も小学部・中学部・高等部という構成になり、高等部の卒業生が出るようになりました。

ところが卒業して一般社会に出て就職していくの

がむずかしかったため、そのまま学校に留まって学校内の作業実習場に就職して働くという名目で学校に残っていられるようにしました。そして「卒業」ということにはこだわらずに、卒業生の両親の協力を得ることを条件に、園児たちの成長に対応した教育の内容や方法を講じながら学園も発展させていこうと考えたわけです。

しかしいつまでもそれでよいというわけにもいかず、卒業生の働く場・生活の場として当時の制度に則った施設をつくらうということになり、卒業生の健康状態や情緒的な安定性などの面を考慮した場合、都会的な環境の中でもよいと思われるケースと農山村的で環境的刺激の少ないところでの生活のほうがよいと思われるケースがあることから、施設を都会的環境と農山村の環境の両方につくることが理想だということになりました。それが一九七二(昭和47)年の「社会福祉法人富士旭出学園」の設立となり、一九七四(昭和49)年の「社会福祉法人大泉旭出学園」の設立となったわけです。

このようなことから社会福祉法人大泉旭出学園は教育と福祉を連携した事業を標榜していますが、教育の事業も福祉の事業も人が人としてよく育ち、よく生きるためのものであり、本来的には一体的なものと考えます。

◇ ◇ ◇

現在は、学校法人旭出学園・社会福祉法人富士旭出学園・社会福祉法人大泉旭出学園の三つの法人によるすべての教育施設と福祉施設の総称が「旭出学園」です。職員の間では「旭出グループ」と称されていますが、その源は、私塾的教育の事業であり、そこから始まったというところに旭出学園の大変重要な歴史的意味があると思います。

旭出生産福祉園が45周年を迎えるまでの間には、社会状況も変化し、障害児者にかかわる教育や福祉の施策も大きく変化してきました。

教育面では、障害児教育の義務制が実施され、「特殊教育」は「特別支援教育」の制度へと転換し、盲学校・聾学校・養護学校という障害種別の学校区分はなくなり、「特別支援学校」に一本化され、現在に至っています。

福祉面では、措置制度の下で社会福祉法人の運営する施設も増え、社会状況も変化するにつれ福祉サービスの提供が利用者本位でないことや、社会福祉法人としての理念も独自性もない法人不在の施設の管理運営などのことが問題視されるようになり、こうしたことが社会福祉基礎構造改革へと連なり、「措置」による福祉サービスの提供の仕組みは、サービスを利用したい人が自らサービス事業者と「契約」を結んで利用する仕組みの制度へと改変され、障害者施設を取り巻く状況も大きく変化しました。さらに社会福祉法人制度改革が実施され、現在に至っています。

大泉旭出学園は社会福祉法人として、教育と福祉という視点を大切にするとともに、社会福祉法人制度改革の趣旨を踏まえ、持続可能な事業経営を目指すわけですが、そのためには確かな理念に基づいたガバナンスの強化は必須であり、旭出生産福祉園、大利根旭出福祉園、調布福祉園、旭出調布福祉作業所、板橋区立徳丸福祉園の5つの事業所が結束して法人組織の確立を図らなければなりません。

旭出生産福祉園と大利根旭出福祉園は大泉旭出学園が独自で創設した施設ですが、徳丸福祉園は板橋区の施設であり、調布福祉園と旭出調布福祉作業所は東京都の施設だった経緯や事情があり、そこに大泉旭出学園としての独自の事業展開を目指す難しさが少なからずあります。しかしそうした経緯や事情を踏まえておくことは、今後の動向を注視し、さらに障害児者の教育や福祉の問題を考える上で、むしろ大切なことだと考えます。

今後とも、ご指導・ご鞭撻、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(二〇一九年度 旭出生産福祉園事業計画「社会福祉法人大泉旭出学園の設立と旭出生産福祉園創設の経緯について」より抜粋・加筆)

45周年によせて

旭出生産福祉園施設長

西塚 秀子



旭出生産福祉園は1974年に養護学校（旭出学園・特別支援学校）を卒業した方たちの働く場、授産施設として開設されました。その後寮も建てられ、さつき寮（特別支援学校旧寄宿寮）から福祉園の入所へと大勢の方たちが移ってきました。当時、入所のある授産施設は市内ではめずらしかったと思います。現に新法に移行する時に東京都に相談に行った際、入所のある施設の年中活動は「生活介護」ですといわれ、就労継続B型も行うのであれば、職員はもちろん設備等もきっちりと分けなければいけないといわれました。そこで利用者さんや保護者の皆様に説明したところ、いままで仲間として共に過ごしてきたのでこれからは一緒にいいです！と利用者さんに言われ、これまで通り「働くことも大切にしたい生活介護」となりました。現在も作業・創作・余暇・健康活動等

を組み合わせ、日々の活動を工夫しています。利用者さんにとって「自分たちの場所がある」「やるべきことがある」そして「誰かの役に立っている」ということが大事なのではないかと思えます。このことは、今までも、これからも変わらないことだと思っています。

開設時より利用者さんの数は倍になりました。還暦を過ぎた方も何人もおられます。老若二極化対応も現状の課題ではありますが、長いお付き合いや経験・信頼で上手に受け入れている利用者さん達に学ぶことも多くあります。

これからも利用者さんが心豊かな人生が送れるよう、共に歩んでいきたいと思っています。



まんまる



理学療法士



軽運動



散歩クラブ



染織工芸



紙工



ワークショップ



建材



フリーサポートけやき



カボックの小枝

～ お花見 ～

いい天気の中で
食べるおやつは
最高！



今年もきれいな
桜が咲きました



おやつを
買いに
しゅっぱーつ！



夜間想定避難訓練

3月22日に夜間想定避難訓練を行いました。

寮では年に一度、深夜に災害が起きたことを想定して訓練を行います。

今回は入所棟3階の洗濯室から出火した想定で各居室から1階ホールに避難しました。

皆さん、焦ることなく冷静に避難することができ、署員の方からお褒めの言葉を頂きました。

急がず
焦らず
ゆっくりと



皆さんすば
らしかった
です
お疲れさま
でした

手をつないで
いこう



ホールに避難
だっ！



昨年12月に還暦を迎えられたお二人です。



祝☆還暦

明るいまードメーカー ずっと元気で



新井 道子さん



鳥田 雅彦さん

いつも素敵な笑顔をありがとうございます

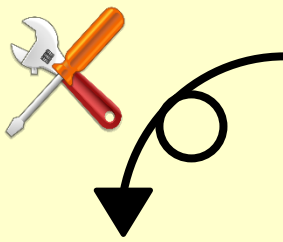
入所棟の改装

・新しい手すりの設置

一階女子トイレの手すりが新しくなりました。

以前のものは固定式であったため車イスから便座への移乗が窮屈なものになっていました。

しかし今回の改装で手すりが上がるようになり、場所を広くとって、よりスムーズな移乗が行えるようになりました。

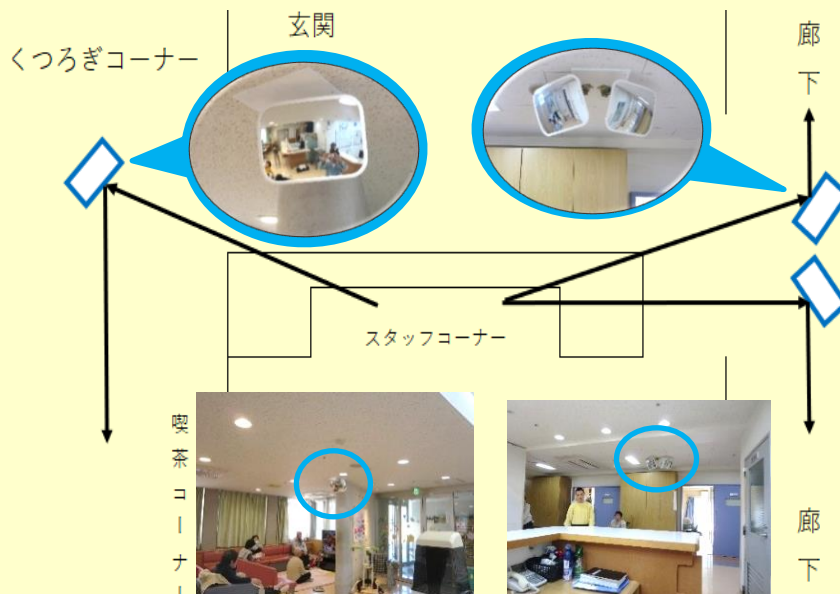


手すりが可動式になり、L字の手すりも付きました。

・ミラーの設置

以前はスタッフコーナーから死角になっていた場所がミラーを設置したことでよりなくなりました。

視野が広がったことで事前に危険を察知でき、事故の防止に役立っています。



職員研修

旭出生産福祉園では虐待防止に向けた取り組みを行っています。具体的には、委員会の設置、虐待防止をテーマにした職員研修の実施、虐待防止チェックリストの実施等です。

今回はその中でも、職員研修を取り上げていきます。

これまで職員研修として、必ず年に一度は虐待をテーマに行っていました。実際にあった虐待事例やチェックリストの中から項目を使い、グループワークを中心に行っていました。少人数のグループで意見を出し合う事で、職員間の認識のズレがないかの確認や、自分自身が行っている支援の振り返りができています。

また、昨年12月には外部の講師をお招きしての研修を行いました。

『虐待防止に向けて』虐待は重大な人権侵害というテーマでした。なんとなくわかってはいるつもりでいた『虐待』について、法律面や倫理面等多角的にお話いただき、何が虐待なのか、どうして起こってしまったのかを改めて知る機会となりました。



中でも、「虐待であるかどうかの判断は第三者がするもの」というお話があり、はつとさせられた職員も多かったようです。他にも専門的な話が聞けて良かった。日頃の支援の振り返りができた等前向きな感想が多くありました。

今後も利用者の方々が過ごしやすい環境づくりを目指し、虐待防止に向けた様々な取り組みを展開していきます。



(土屋)

歯科衛生指導

健康寿命という言葉をよく聞きます。口腔ケアは厚生労働省や日本歯科医師会が推奨する8020運動(80歳になっても自分の歯が20本残せるように)では、自分の歯で咀嚼することは生命の根源、生きる力に直結しており、健康で満足度の高い生活を送る要素となると言われています。私たちも支援の経験の中で歯の重要性を感じる事例に出くわすことがあります。

今回は当園の老化プロジェクト担当職員の企画で講師の方をお呼びして①利用者への磨き直し指導、②職員へ向けての口腔ケア指導という内容で研修を行いました。まずは長く食事を楽しむためにも、「口腔ケア」についてご家庭でも取り組んでみてはいかがでしょうか。



(北嶋)



おめでとうございます



勤労賞 辛島さん



勤労賞 K・Hさん



(石川)



勤労感謝祭

平成最後の勤労感謝祭でした。勤労感謝祭も昭和から平成への移り変わりとともに形態を少しずつ変えてきました。以前は前夜祭まであったという話も聞きます。そして今年は令和へと移ります。学校との合同行事なのでバランスを考えながら、利用者の方々の変化もありますので、安全に楽しく過ごして頂ける行事を目指し計画していきます。

クリスマスパーティー



調理部の主催でクリスマスパーティーを行いました。美味しそうなメニュー、楽しくなるような盛り付けに嬉しくなります。



今年は染織工芸科の桑原由美さんの乾杯の音頭で始まりました。日頃から楽しくおいしい食事を準備してくれる調理部ですが、クリスマスパーティーでは更に食事で楽しませてくれます。おかげで笑顔の多い食事の時間になりました。



食堂改修工事

この食堂風景も今回の改修工事で変わります。利用者数も増え、限られたスペースをなんとか

広く使えないものかと考え、大規模改修のひとつとしてまずは調理部から工事を始めることになりました。みなさまには工事中ご不便をおかけしますがご承知おきいただきたいと思います。ご理解ご協力のもと、よろしくお願いします。(土屋)

大泉法人ネット



大泉地域の保育・老人・身体・精神・知的など各分野の法人が横のつながりをもって、地域の相談などを取り持つネットワークとして活動をしています。今年は大泉法人ネットの試験的な試みで育成・収穫といった食育をテーマにかかげて、収穫祭を目指して取り組んできました。老人福祉施設こぐれの里の一角をお借りして、ネギを育て、11月27日ついに収穫祭を開催。神主に祝詞をあげていただいた後、収穫したネギを使った豚汁をたべながら、園児や施設利用の方々の出し物を見て楽しく過ごしました。



(北嶋)

後援会ご寄付ご芳名一覧（順不同）

平成三十年十月～平成三十一年三月末まで

広報に記載されておりました、寄付を
頂いた方のお名前の一覧は、
ホームページに掲載するにあたり
伏せさせて頂きました。
ご了承ください。

『みなさまからのご支援ご協力に
厚く御礼申し上げます』



大泉旭学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。

特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤を固めていく必要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただきたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



旭出生産福
祉園には火災
の時に使用す
る為の防火水
槽を設置して
います。
今回、防火水
槽の設置が地
域住民の安全
確保や災害予
防に寄与した
との事で表彰
されました。
(土屋)

消防署より
表彰
されました!!



編集後記

建材科裏の桜の木を伐採します。区の保護樹木申請の時に木の傷みのため保護樹木にはなれず、逆に枝の落下などの危険があると指摘されたための伐採計画です。地域の方からも愛され、近隣のお宅は毎年ライトアップをして夜桜を楽しまれ、この桜があるからここに越してきたという方もいらっしゃいました。桜も旭出や地域を45年みてきました。

